

こころのワクチン

A Mind Vaccine

もみの木動物病院（神戸市）獣医師・村田 香織
Kaori MURATA, Veterinarian, Mominoki Animal Clinic, Kobe City



○村田香織

済みません。皆さんお疲れだと思うので、パソコン準備している間、ストレッチでもしといてください。

改めまして、神戸市のもみの木動物病院の村田と言います。どうぞよろしくお願ひします。

きのう、きょうと皆様のお話いろいろと聞かせていただいて、すごく情熱的な熱い思いをいっぱいいただいたような気がします。本当にこのすばらしい会を開いていただき、またお招きいただいた Knots とその関係者の皆様に心よりお礼いたします。ありがとうございます。

当院では通常の診察に加えて、長年ペットの問題行動のカウンセリング、ほとんどが犬で、少し猫も含ま

れますけれども、そういうものを行っています。本当に犬の問題行動に悩んでらっしゃる方って多いんですね。きょうも少しそういうお話がありましたけれども、ペットと暮らすことが心身の健康のために役立つことはわかっていながら、やはりペットと暮らすことが悩みの種になってたり、頭痛のたねになってたりという方は案外多いんですね。そのことで放棄されるペットもいるわけですし、近隣の住民に迷惑をかけてしまっているケースもあるんですね。なので、成犬の問題行動を長年取り組んできて思うのは、物すごく骨が折れるのですね、やはりその治療に。場合によっては完治しないというケースもありますし、結局すごく根気が要るし、時間がかかってしまうということで。それに比べると、子犬の時期に問題行動を予防し、きちんとした教育をしていくことのほうが、よほど少ない努力で多くの実りある結果を得ることができるということを実感しています。

これって伝染病の予防と同じで、我々、怖い伝染病たくさんあるんですけども、一たんかかってしまうと命を失ってしまうこともありますし、その治療には非常に時間がかかります。ただし、ワクチンを打つことによってこれを予防できるわけですよ。したがって、私は犬の問題行動、猫も含まれますけれども、それを予防して、飼い主さんと強いきずなを築いて、よい関係を築いてもらう、そして問題行動を予防する。そういったことを含めて、子犬、子猫を教育していくということを、心のワクチンというふうに呼んでいます。

私は、いつもペットの飼い主さんとお話するんですが、ペットを飼うのあれば三つのルールを守ってください。その一つ目が、飼い主さんがペットとの生活を楽しんでいること。さらに、ペットが幸せであること。そして、周囲の人に迷惑をかけていないこと。この三つは守ってくださいねということをお話します。これ、J A H A（公益社団法人日本動物病院福祉協会）の C A P P の活動の様子ですが、これを柴内先生が日



【スライド1】



【スライド1】

本でスタートされてから、もう二十数年になりますけれども。この子たちは周囲の人に迷惑をかけるどころか、周囲の人もハッピーにしてくれているということで、そこまでできたら非常にすばらしい飼い方ではないかなと思っています。【スライド2】



【スライド3】

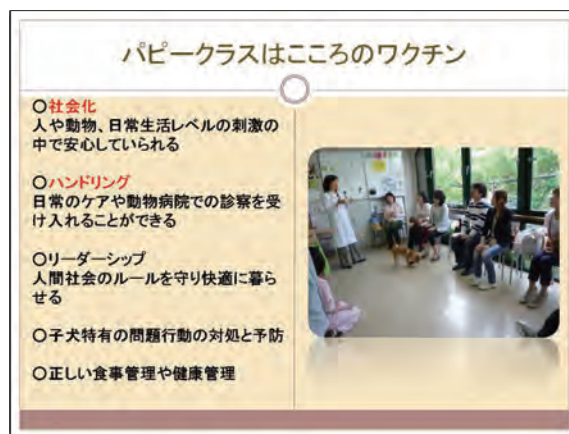
そのためにはどうすればいいのという話ですが、このルールを守って幸せに暮らすための三つのステップがあります。きょう、ジャパンケネルクラブの永村先生いらして下さってますけれども、純血種を選ぶのであれば、特に自分のライフスタイルとか住環境を考えて、犬種を選ぶことが、すごく大事なことだと思うのです。午前中のお話でもマッチングの話がありましたが、これ、非常に大事なことが一つ目です。

さらに二つ目は、ニーズを満たすということなんですけれども、適切なお食事を与え、ていただいて、運動であるとか、遊びであるとか、そういう犬、あるいは猫にとって必要なものをきちんと与えてあげることが、二つ目です。

その上で、人間社会で幸せに暮らしていくための教育、しつけ、そういうものをしていくということが必要ではないかなと考えています。

私は、不幸なペットが確かにたくさんいて、同じように不幸な飼い主さん、問題行動のある子を飼ってらっしゃる飼い主さん、本当にいろんな大変な思いをされていて、そういうものを減らすために一番の近道、じゃあ何かと言ったら、私は先ほどもお話したように、強いきずなで結ばれた幸せなペットと飼い主さんをふやすことだと思っているのです。幸せなペットと飼い主さんをふやすために動物病院でできることは、パピークラスかなということで、パピークラス以外にもいろいろあるんですけれども、まず、手始めにパピークラスを行い始めました。

きょうは時間もないので多くはお話できないですが、そのパピークラスの中で飼い主さんと一緒に勉強して



【スライド4】

いくような内容を、二つぐらい簡単にお話ししていきたいと思っています。子犬は非常に頭が柔軟で、適切な行動を学習してくれるのも非常に速いですね。同じように悪い行動も簡単に学習してしまうんですけども。パピークラスに来ていただいた飼い主さんと犬は、その後もすごくいい関係を築いてらっしゃるなどいうのを感じるんですね。病気の予防であるとか、治療のために病院に来ていただいた飼い主さんたち、すごくいい関係を築いてらっしゃって、見てて、本当にほほ笑ましいぐらい幸せそうなんですね。そういった子犬を教育していくことは非常に大事な日常ごろ感じています。【スライド4】



【スライド5】



【スライド6】



【スライド7】

きょうお話する内容は、このうちの二つなんですけれども。まず、社会化ということで、社会化というのは、例えば飼い主さんはもちろんですけれども、飼い主さん以外の人と楽しく触れ合うことができる。もし、楽しくというところまで行かなかつたとしても、少なくとも一緒にいても平気だよという状態には、落ちついていれる状態にはしておきたいと考えています。もう一つは、犬ですよ。同種動物である犬とも楽しく遊ぶことができれば理想的ですし、もしそこまで行かなかつたとしても、一緒にいても大丈夫、落ちついていられるところまで持って行ってあげたいと思うんです。

一寸先は闇という言葉がありますよね。去年の震災もありましたけれども、私のようにある程度人生経験がある方は、だれでも、その人生の中でこの言葉何度も心に刻まれるのではないのでしょうか。私も何かあるたびにこれを思うんですけれども、人と比べて寿命が非常に短いペットも、その生涯の中でさまざまな経験をするわけですよ。彼らから見ると、人間は異種動物ですよ、その異種動物である人間の社会で暮らして、言葉による情報入手の手段を持たないわけですね、彼らは。そうすると、やっぱり人生って、人生というか犬生かもしれないですけども、本当に一寸先は闇なんです。

例えば、人間同士であれば、「お母さん、あしたから1週間、ちょっと旅行にお友達と行って来るからね」とお母さん出かけても、だれも心配しないですけども。犬にしてみれば、ある日、突然お母さん、飼い主さんがいなくなっちゃったということですよ。いつ帰ってくるかわからない。帰ってくるかどうかかわからないわけです、犬には。そういう情報入手の手段が彼らにはないわけですよ。十数年間生きていく中で、本当にいろいろな環境の変化を受けるわけなんです。そのときにもハッピーでいられるようにするためには、

子犬のときの教育は非常に大事なんです。

例えば、飼い主さんが病気で入院する。きょうもお話にありましたけど、そういうことだってあるわけですよ。何らかの理由で飼えなくなっちゃうということだって多いわけです。そういうことがあったとしても、ほかの犬や動物、人と仲よく暮らせることができれば、また別の家庭で幸せに暮らしていくこともできますし、きょうお話にあった避難所で一緒に共同生活することだって可能なわけですよ。それができなければ、本当にその子も不幸になってしまうわけなんです。

【スライド5-6】

これは、うちのスタッフとうちの動物たちの写真なんですけれども。こんなふうに人とも、犬とも、場合によっては猫とも仲よくすることができれば、本当にその子たちの犬生は安心かなと思います。それが、我々が子犬のときにやっていく教育の一つだと思うのです。

これ、カウンセリングに来た子たちなんですけれども、私が自宅で預かったときのビデオを今からお見せしたいと思うんですけれども、社会化がうまくいかなかった子たちのビデオです。

(ビデオ映写しながら説明)

この子、うちでしばらく預かってたんですけれども、周りにいるのはうちの犬とかスタッフの犬なんですけれども、怖いんですね。だから、ずっとあのケージに入って、みんなにちょっと威嚇をしているわけですね。決して、これ意地悪で言ってるわけじゃなくて、怖くて言ってるんですね。あの子たちは、いわゆる社会化ができた子たちなので、この子困ったなどは思ってるんですけれども、それに対して応戦するとか、そういうことはないわけです。ちょっと困ってますよね。でも、こういう子たちよくうちには来るので、割りとなれてるんですね。でも、犬って非常に社会性の強い動物なので、何日か一緒に生活していくうちに見事になってはいきます。



反対側の子は、また別の子ですが、この子も人にも犬にもだめだったんですけれども。うちに来た人に対して攻撃的な様子でほえています。周りにいるうちの犬たちにはなれているんですね、この時点で。この人にほえてるんですね。ちょっと注意されてますね、うちのボーダーコリーに。でも、もう1回行って、この人が遠ざかると慌てて追っかけていきます。怖がりの子って、そうですね。逃げようとする逆逆に追いかけてくるけど、こうやって寄ってこられると怖いからまた逃げてしまう。決して悪い子ではないですが、子犬のときに人や犬との社会化がうまくいかなかった。どんなふうに人や犬とコミュニケーションをとったらいかがかわからないんですね。こういう相談非常に多いです。

じゃあ、ほかの犬や動物とどういふふうにしたら仲よくできるのかという話ですけれども、まずパピークラスでお勧めするのは、人のほうなんですけれども、いろんな人から子犬のうちに好物をもらいましょうという話をします。人に対する安心感を育てていくということですね、そのことによって、先ほどのような問題を予防していくということです。パピークラスの中では、参加者や我々スタッフから好物をもらう練習をするんですね。そのときに、まずパーの手であげてくださいねというお話をするんですけれども。それは、こうやってあげる方が非常に多いんですけれども、つまんであげちゃうと、手ごと食べちゃうことがあるので、痛かったり、怖かったりするということで、せっかくご褒美をいただいた方に失礼に当たりますので、手のひらをパーにしてあげてくださいということをお願いします。

犬はもともと頭さわられるのはそんなに好きじゃないですね。皆様御存じの方も多いと思いますけれども。知らない人からいきなり頭をさわられるのは、犬は好むことではないです。ただし、一般的に人間は頭を触るのがすごく好きなので、できればそういうことにもならしめてあげるといふことのほうが、犬の将来のことを考えれば、人間社会で生活するには楽かなということで、頭を触ってからご褒美をあげるという練習をしたりもします。これ、いきなり知らない人にされると犬は怖がりますので、まずは飼い主さんがされたらいいんじゃないかなと思います。

もし、頭をさわろうとしたときに頭をのけぞって嫌がる子の場合、片方のご褒美を持って、そのご褒美をかじらせながらさわる練習をしていただければいいかなと思います。いろんな人にならすという練習を



【スライド 8】



【スライド 9】

してるんですけれども、これは獣医師からご褒美をあげたり、看護師からご褒美をあげたりしてるところですね。

あと、わんちゃん同士の触れ合いの時間もつくって、子犬同士で楽しい時間を過ごすことによって、犬とのコミュニケーションもとれるようにという時間をつくっていきます。

なので、子犬の時期に、ぜひ意識して社会化トレーニングを行われると、随分とその子が人間社会で生きやすくなると思うんですよね。【スライド 7-8】

ちょっと、皆さん考えていただきたいんですけれども、いかがでしょうか。この写真とこの写真、どっちがいい写真だと思いますか社会化のために。左がいい写真と思う人。右がいい写真。右のほうが多いですね、すごくほほ笑ましいですよ。子供たちがにっこり笑って、子犬たちをだっこしている写真です。こちらは、子犬たち、これうちのスタッフですけど、うちのスタッフが持ったり、場合によっては子供に渡して、ご褒美をもらってる写真ですね。

正解をお話しますと、こっちがいいんです。もう圧倒的にこっちがいいです。私から言わせると、右側はちょっといきなりはやめてもらったほうがむしろいい方法で、だっこするのは人間って物すごく好きなん

ですね。人間ってもともと抱いて子育てをする動物なので、抱くということは、ぬいぐるみでも、小さい動物でも物すごく好きなので、子供たちは非常にこれ楽しんでるんですよね、大好きなんですけれども。犬にしてみれば、自分よりもはるかに大きな初対面の怪物のような生きもので、ときには大声出したり、ちょっと乱暴な扱いをする子もいますけれども、そういう子たちにいきなり抱き上げられるというのは、すごく怖い体験でしかないことがほとんどです。

なので、そうじゃなくて、ご褒美をもらうのであればどうですかね。これは犬にとっても楽しめる経験なんですね。もちろん、これ、いきなり抱かせてるわけではなく、最初はスタッフが持って、ご褒美が食べれるということを確認した上で、この子に渡して、また、この子にだっこした上で食べれるかなということも確認しているんですね。こういう順番が大事です。

私、よく飼い主さんにお話するんですけども、隣に引っ越ししてきた人が、「はじめまして」と言って、「これ、つまらないものですが」と言って、何かおいしそうなる物を持ってきていただいたらうれしいですね。逆に、隣に引っ越ししてきた人が、いきなりさわってきたらどうですか、嫌ですよ。だから、さわることと、物をもろうということは子犬にとっては、全く別のことなんですね。

それを、人間からすると、なぜ、そんなのダメなのと思われる方もいらっしゃるんですけども、ぜひそのあたりも考えて社会化をしていただきたいと思います。一生懸命人に会わず練習して、人が怖がりになりましたと言ってこられる方、すごく多いんです、実は。

最近いろんな情報がありますので、社会化が大事だということを御存じの方すごくいらっしゃるんですけども、社会化のために、犬が怖いからドッグランに行きました。犬大嫌いになりました。犬を見てすごくほえるようになりました。すごく多い問題です。社会化のためにいろんな人にさわってもらったらうなるようになって、最終的にはかむようになっちゃった。これもすごく多い問題です。なので、失敗をしないように社会化をしていていただきたいなと思います。

もし、こういう、他人からご褒美も食べれないという子がいるのであれば、まず相談に来ていただけたらありがたいかなと思います。変にいろんな人にさわってもらうことをすると逆効果になってしまうこともありますので。【スライド9】

これは、うちの犬たちが子供たちと接してるところですが、複数の子供が子犬を取り囲んで、大声を出したり、



【スライド10】

抱き上げたりという触れ合いは、先ほどもお話したように、ほとんどの犬が好みません。大型犬だったら、子供より大きかったら、意外と堂々としてるんで大丈夫なんですけれども、大体、小型犬とか子犬は嫌がります。なので、子犬の様子を見ながらご褒美をあげてもらうととか、得意の芸を披露させたり、おもちゃで遊んでもらうとか。とにかく、子犬にとっても、子供にとっても楽しい触れ合いを心がけていただきたいんですけれども。

例えば、これはうちの子たちが子供と触れ合っているところです。これ、芸をさせてるんですね。ハイ、バンザーイ、バーンとやってるんですね。これ、子供にとっても楽しいし、それでご褒美もらえるとわかってるので、犬たちにとっても楽しい触れ合いです。うちの犬は子供大好きです。これが、先ほどのようなパターンであれば、逆効果になる可能性もあるということなので注意していただきたいということです。

【スライド10】



【スライド11】

子犬たちにとって、犬の幼稚園はすごくいい機会になります。これは、うちの子犬の幼稚園。最近、犬の幼稚園もふえてると思いますが、こういう幼稚園もきちんとそういったことを考えて、いろんな触れ合いの時間を持たせてくれる場所であれば非常にいい効果が

あります。ほかの犬にうまく触れ合えない子犬であれば、私は幼稚園をすぐにお勧めします。あとは、エネルギーがあり余ってる子犬たちにもお勧めですね。

パピークラスの目標に、落ちついて診察や治療が受けられるということがあるんですね。犬にとって動物病院は、普通はすごく嫌な場所ですよ。うちの病院に来た子たちのビデオをお見せしたいと思いますけれども。

(ビデオ映写しながら説明)



【スライド 12】

ちょっと時間がないので、なるべく早目に回しちゃいますけれども。診察台に乗せられないんですね、この子、怒って。なので、診察ができないということで、エリザベスカラーをつけて、獣医師と看護婦が何とか診察台に乗せようと、飼い主さんもこの子をだっこして台に乗せられないわけですね。なので、我々が頑張っているところですけども、結局、うまくいかなかったという状態ですね。大変でしょう、私たちの仕事って。

これも、そうです。これも検査のために来たんですけども、かんでしまうということで、ちょっと口論をつけようとしてるんですけども、なかなかうまくいかない。今はこういう形でマズルをつけるのではなくて、最初にマズルをつけることにならしてから、病院に来てもらうという指導に変えてますので、今は、こういう光景はうちではないです。

この下は、実は入院してる子なんです、この子。私が治療しようと思ってドアをあけると、入院舎をあけるとこんなふう怒ってるわけですよ。こういうふうでは十分な診察ができませんし、先ほどもお話にあったように、長期にわたるストレスがあれば免疫力の低下を招くこともありますし、食欲もちろん落ちてしまうということで、我々が提供する医療の質が低下してしまうんですね。それと、ストレス下のこういうペットを飼い主さんが見ると物すごくつらいことだと思うんですね。私だったら絶対嫌です。そんなふうに分

の子がなっているのはかわいそうで見られないと思うので、結局病院に来ることをためらって、ひどくなるまで放置してしまうというケースも意外と多いんですね。【スライド 12】



【スライド 13】

犬が攻撃的になる理由なんですけれども、よく言われるように、別に犬がわがままなわけでも、自分がえらいと思ってるわけでもないんですよ。ただ単に怖い。知らない場所につれていかれた、いきなり。犬にとったら、本当、情報ないですよ、さっきも言ったように。ここで自分の病気を治すなんて夢にも思っていないわけですよ。信頼している飼い主さんにいきなり知らないところに連れていかれて、知らない白衣を着た人間に押さえつけられて、わけのわからない聴診器を当てられることだって、それ意味があることだなんて犬は思っていないわけですよ。耳鏡だって、意味が全然わからないわけですよ、犬にとっては。そうされて、なおかつ痛みを伴うような処置をされてしまう。恐怖や不安から攻撃的になってしまうということは、ある意味、当然のことかなと思うんですね。

私、いろんなところでお話しするのでよく聞かれたことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、10年ほど前に目からうろこが落ちたことがあって。どんなことかと言と、カウンセリングに来たゴールデンの子だったんですけども、その子は知らない人や知らない犬が近づいたら、うなったり、攻撃的になってしまうという問題があったんですけども、なぜそうなったかと言ったら、その子は女の子でブリーディング（交配）をしようということで、ブリーダーさんのところに預けられたそうです。ブリーダーさんに預けられて帰ってきたら、そうなったというんですね。ものすごくトラウマのあるような経験をしたんだということがわかりますよね。それまでは、そういうことはなかったということなんで。

もちろん、恐らくその子は十分な社会化ができてな

かったということは必ずあると思うんですけど、ベースとしてね。でも、そこまでのことはなかったのに、そんなになっちゃったということで来られたんですね。私はそのブリーダーさんに対してすごく強い怒りを感じて、どんなことをしたかわからないですけども、多分ひどいことをしたんだろうと。そうすると、これからのその子のペットライフというか、飼い主さんのペットライフであったり、その子の犬生であったりというの、すごく質の悪いものになってしまうわけですね。

何てひどいことをしたんだろうと非常に怒りを感じたんですけども、その後、ハタと気がついて、目からうろこが落ちたんですけども、まさに。私たちも同じことをやってきたというふうに気がついたんですね。獣医師として動物病院で。今まで、医療行為といながら、動物に対して同じことを自分たちもしてきたんじゃないかということそのとき思ったわけです。

【スライド 13】



【スライド 14】

実際にカウンセリングに来る子で、病院での経験がきっかけで攻撃的になったという子は結構多いです。例えば病院でつめ切りをしてから、そのとき出血したらしいんですけども。それから、知らない人を見ると攻撃するようになったというボーダーコリーの子がカウンセリングに来たことがありますし。あとは、これはラブラドルの子で、男の子で、去勢手術をした後に抜糸のときになかなかひっくり返らないですね。そういうトレーニングをしてなければ、ひっくり返るのが嫌だということで、すごい暴れたときに、男性の獣医師何人かにかがって抑えられたらしいんですね。それから、知らない男性を見ると攻撃するようになってしまったという子も来たことがあります。

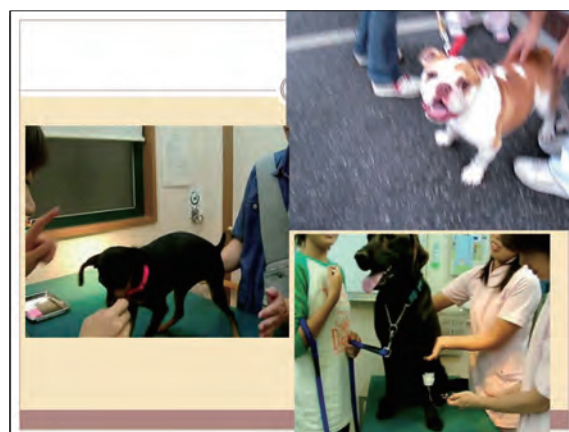
我々がやってる行為を、犬が医療行為だと理解するということはないんですね。体罰を犬が虐待だと思うように、医療行為は犬にとってみれば虐待以外の何者でもないのかなと思うのですね。私たちの扱い方一つ

で大きなトラウマを持たせてしまうということもあるんだということを感じました。

これを予防するにはどうするかということですけども、嫌なことをする前によい環境を築いておくということは非常に大事だと思っています。そのためにも、動物病院で我々とともに楽しい時間を過ごすパピークラスはすごく有効なんです。パピークラスに来てる子たちがどれほど喜んで病院に来るかをちょっとお見せしたいと思います。



【スライド 15】



【スライド 16】

(ビデオ映写しながら説明)

すごく喜んで。うれしいですね。すごく楽しそうに病院に来てくれます。この子も。時間がないので流しちゃいますけれども。この子もすごく喜んで来てます。日本犬なんかパピークラスに来てなかったら、確実に病院嫌いになりますからね。あとは、ロットワイラーの子なんですけれども、自分でちゃんと診察台に上がってくれます。先ほどのオールドイングリッシュ・シープドッグの子は、診察台に上げるだけでも私たちあれだけ苦労したわけですけども、あっという間に上がってくれるし、この子はいつも飼い主さんに引っ張られるような感じで診察室に入ってくるんですけども、逆だったら多分診察室に絶対入ってこれないですね。

なので、すごくいいわけですね。

この子は避妊手術の後に抜糸に来てる子ですけども、私はいきなりひっくり返して抜糸とかはせずに、今、とりあえずご褒美あげたりして少しだけ時間とるんですね。ほんの30秒ぐらいですよ、でもね。いきなりひっくり返されたら、やっぱり嫌ですよ。

こちらは、病院の前でお散歩中に立ち往生してるというか、病院に入りたいと言って病院の前から動かない。飼い主さん、お散歩で通りかっただけなんですけど、この子は病院の前だから入ると決まってると思ってるわけですね。だから、余りにも入りたそうだったんで、じゃあ体重でも量っていったらと言って入ってるんです。大好きなんです。昔は、よく飼い主さんに言われたのは、病院の近くまで来て、行き先が病院だとわかった途端に犬が立ちどまったり、家に帰ろうとして病院に連れてくるの大変だとすごくよく言われてたんですけど、今は逆で、結構病院の前で立ち往生して、飼い主さん、こうなって引っ張っていつてる姿を見ると、ちょっと私はうれしいです。

この子、引っ越ししちゃったんですけども、年賀状いただいて、その年賀状に何て書いてあったかと言うと、この子、けいちゃんと言うんですけど、けいちゃんが病院に行けなくてかわいそうですと書いてあったんです。すごくうれしかったんですけども。

あと、これは、献血のために病院に来てくれたパピークラスの卒業生の子です。ここは楽しい場所だと思ってるので、すごくお利口に採血させてくれるんですよ。これが、もし麻酔をかけて無理やり押さえつけてということであれば、飼い主さんにとってもすごくつらいし、そこまでして自分の子の血液をだれかの子のためにあげようと思わないと思うんですけども、わんちゃん喜んで来てくれますので、こういったことにも協力をしていただくことができます。【スライド 15-16】

と言うことで、もう一つ。それが社会化、動物病院



【スライド 17】

に慣らすということも含めてお話ししました。もう一つが、ハンドリングということなんですけれども、このハンドリングは体中さわることができるようにしておくということ。そして、必要なケアを早く受け入れることができるというふうにしておくということ、すごく大事です、これも。

先ほどのオールドイングリッシュ・シープドッグの子の鎮静かけてるところですね。この子はフローリングで滑ってしまって、足のぐあいが悪いということで、レントゲンを撮ることになったんですけども。当然、先ほどのような状態なので、鎮静かけないと無理ということで鎮静をかけてるところですね。これ、足の裏です。パットなんですけれども、足の裏、毛がこんなになっちゃってるんですけども、飼い主さん家でさわれないんですね。この子の足の裏の毛刈りはできないわけですね。なので、こんなふうに毛がぼうぼうになって、非常に滑りやすい状態になってしまってるということなんです。

これ、つめ切りをしてるんですけども、鎮静をかけてないとつめ切りもできない。お耳の中も、マラセチアという酵母菌の感染の外耳炎なんですけど、こういう状態になってるんですけども、家では点点耳薬も入れられないということなんです。こういうふうになってしまったら、お互いに不幸ですよ。飼い主さんによると、この子、子犬のときには何でもできてたらしいですね。いろんなことを無理やりやっていたそうです。多少嫌がっても、無理やり耳掃除であったり、つめ切りであったり、いろんなことをしてたということなんです。

確かに子犬の間であれば力づくでできることであっても、犬がそれを不快に思ったり、嫌なことだなと思っていると、大人になるとそれに対して、やっぱりチャレンジしてくるんですね。威嚇するようになるんですね。歯をむいたり、うなったりということで、自分の身を守ることを犬が学習すると、その後、同じ状況になると必ず咬むようになってしまうわけですよ。そういう学習させてしまっただけではいけないわけなんです。

なので、無理やりやるのではなくて、子犬の間に優しく日常的なケアを受け入れるように、そういうことにならしておくのが一つ大切なことになるわけですね。【スライド 17】

例えば歯石の処置をした子なんですけれども、この子、もともとお口触ると怒る子なんで、歯磨き当然できないということで歯石が随分ついてきたんで、じゃあ、歯石の処置をしましょうと言って、麻酔をかけて、



【スライド 18】

初めて気がついたんです。こんなところに腫瘍があるんです。これ診てないとわからないですよ。私たちが、もちろん口をさわると怒るので診てないわけです。なので、麻酔をかけて初めてこういうものに気がつく。

これも同じような形で、飼い主さんがお口さわれない。食欲なくなってきましたということで来られたら、もう既にこんなひどい歯周病になってるんですね。これどう思いますか、何だと思えます。柴犬の下半身です。これ、おなか側ですね。これ、足ですね。これ、おちんちんですね。この子、皆さん、ごらんになってどう思いますか。どういう状態でしょう。見ただけじゃわかんないですよ。やっぱりさわらないとだめなんです。日ごろから。この子は、実はこういう状態だったんです。

これ、腫瘍です。こんな大きな腫瘍が、毛が生えてると気がつかないですね。飼い主さんは、昨日気がついたということで来られたんです。柴ちゃんだったら、普通の姿でいるとあの部分って目につかないですよ。日ごろからさわったり、ひっくり返しておなか見たりということがなければ、ここまで気がつかないことだってあるわけなんです。なので、病気の早期発見という意味でも、やはり体をさわってあげるとかいろんなケアをしてあげる、飼い主さんとの本当の触れ合いの時間を持ってあげるのはすごく大事なことです。【スライド 18】

先ほどの子はもうすでにガンが転移してしまいましたが、残念ながら。じゃあ、どうしていったら体じゅうどこでもさわらせてくれるようになるかということなんですけども、これ意外と簡単なので、ぜひ子犬を飼ってらっしゃる方であれば、成犬でも時間をかければできますので、やっていただいたらいいかなと思うんですけれども。私がよくパピークラスでお勧めするのは、お食事を使って、ドライフードでいいです、総合栄養食でいいと思います。それを使って練習します。御飯



【スライド 19】

(ドライフード)を与えながら体を触る練習をするんですね。犬は御飯に夢中なので体さわられることはほとんど気にしていません、この時点では。こうすることによって、触られることにまず慣らしていくんですね。ただ、いつまでも御飯あげながらというわけにいかないの、あげながら、さわられることになれば、今度はその御飯を報酬に変えていくんですね。御飯を後からあげるという形に変えていきます。今、体じゅうさわってるところですね。

これは報酬に変えてるところです。さわってからあげてますね。耳を触ってからあげます。お耳触ると怒る子とか目を触ると怒る子、多いですよ。しっぽさわると怒る子、足先さわると嫌がる子、いっぱいいますけれども、この練習をすれば、本当に簡単にいろんなところをさわらせてくれるようになるんですね。これ、さっき、ちょっと御紹介いただきました「心のワクチン」という私の本の中にも詳しく書いてあるので、もし興味があったら読んでいただいたらいいと思います。

こういうふうに、さわってからあげるという練習をしていきます。全然気にしていないですね、この子ね。ハンドリング、体を触る練習は無理やり押さえつけて慣らすということではなくて、好物と関連づけさせて、楽しく、穏やかにしてあげるということで、本当に効果的になれていきます。【スライド 19】

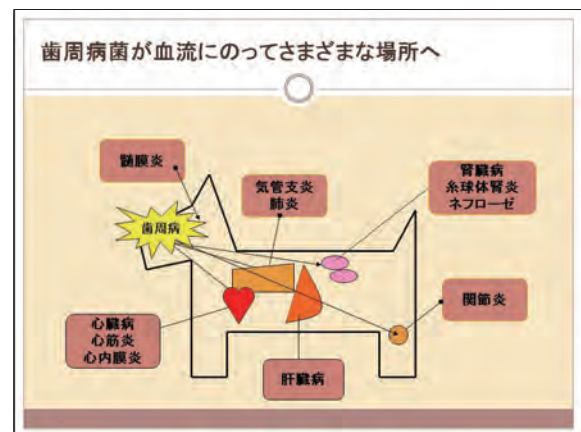


これ、すごいですよね、歯周病になってる子。この子、飼い主さん気がついてらっしゃらないんです、この状態になっても、さわらないから。見たら、すごくひどいことになってますよね。こっちはきれいな子ですけれども。3歳以上の犬、猫もですけれども、何%ぐらいが歯周病か皆さん御存じですか。何%ぐらいでしょう。半分ぐらいと思う人。もう皆さん御存じですね。8割というふうに言われています。80%以上とも言われています。きちんとしたデンタルケアをしていなければ、3歳にもなれば、犬も猫もほとんどの子が歯周病になってると考えたほうがいいんですね。【スライド 20】



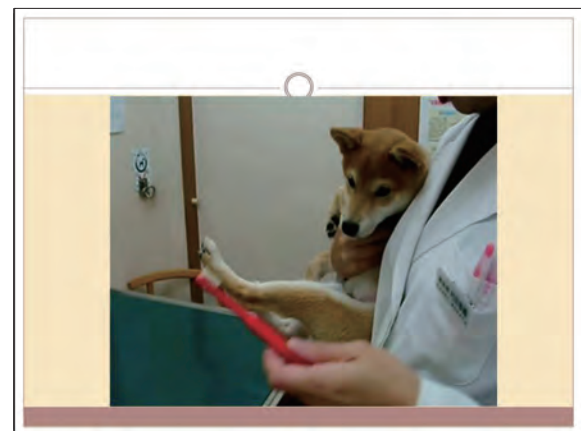
【スライド 20】

この歯周病はただ単に口の問題だけでなく、この歯周病菌が血流に乗っていろんな臓器に悪さをします。肝臓であるとか、心臓であるとか、肺であるとか、関節であるとか、あらゆる臓器でいろんな問題を起こしてくるんですね。なので、歯だけの問題ではないので、デンタルケアは物すごく大切と、人もそう言われていますけれども、物すごく大切なんです、動物でもね。この中で犬飼ってる人、その中で歯磨き毎日してる人。結構いらっしゃいますね、ありがとうございます。うれしいです。ぜひしてください。これは、犬の健康管理はもちろんですけれども、今回いろんなところで話題にもなりました、人と動物の共通の感染症の予防にもなるんですね。【スライド 21】



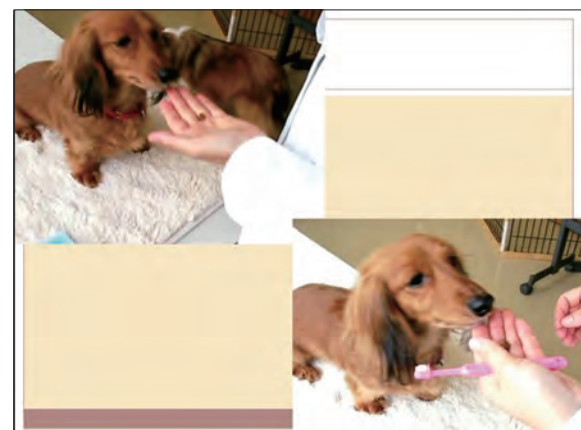
【スライド 21】

我々、仕事上で犬や猫にかまれることはあるんですけれども、先ほどのような歯の子にかまれると、やっぱり熱が出たり、ものすごくはれたりするんですね。そこにはいっぱい細菌がいるからなんです。なので、デンタルケアを必ず心がけていただきたい。そして、デンタルケアがすごく大事だということがわかっているけども、実際に歯磨きを犬が受け入れてくれないことは結構多いです。子犬の時期から歯磨きにならしておけば、ほとんどの子がさせてくれるようになります。



【スライド 22】

ただ、完璧な歯磨きはそんなに簡単ではないので、引き続きしつけというか、トレーニングが必要なんですけれども。少なくとも飼い主さん、口の中を見ることができるといっただけでも全然違うんですね。先ほどのような口の中の異常も発見することができるわけですよ、口の中を見ることができれば。



【スライド 23】

これは、飼い主さんが無理やり歯磨きをした子犬です。あっという間にこうなります、無理やり歯磨きすれば。特に日本犬。こうなっちゃたら歯磨きできないわけですよ。そうじゃなくて、じゃあどうするかと言ったら、これも食べ物、私はフードを使いながらよくやるんですけれども、フードを使いながらお口をさ

わる練習をしてるんですね。先ほどの続きです。歯をしっかりと見れるように、まず口をさわる練習。歯磨きは必ず唇をめくったりする必要があるの、まずこの練習をしっかりとします。全然違和感なくできるようになってから、歯ブラシを初めて使います。これは歯ブラシ使ってるところなんですけれども、一瞬です。見てください、一瞬。いきなりごしごししちゃだめですよ。わかります、一瞬です。一瞬、御褒美。しつこくすると必ず嫌がりますからね。こんな感じで、御褒美と関連づけして、本当にちょっとずつ。いつまでもこうやるわけではなくて。【スライド 22-23】



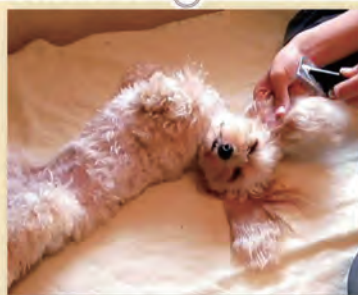
【スライド 24】

今から、それがもうちょっとできるようになったビデオをお見せしますけれども。これはうちの子たちです。すごくやりましたそうですね、これがすごく大事なことです。歯ブラシを見せて逃げる子は、その歯みがきは間違ってます。そのやり方では決して上手にならないので、喜んで受け入れるようにするのはすごく大事なことです。そうすれば、私たちにとっても穏やかな時間になりますよね。格闘の時間にしたくないんですね。私、結構忙しいんですけど、こういう時間すごく好きなんです。自分ですごく気持ちが穏やかになるし、リラックスできるし、幸せな気持ちになります。多分、オキシトシンが出てるんだと思うんですけど。

本当に少しずつ練習をしていただければ、こういうことも全然不可能ではないので、先ほど毎日とおっしゃってくださった方は、みんなそうだと思います、恐らく。人も犬も嫌なことって続かないんですよ。

私、歯磨き、もっと長く、実はするんです。これ2分ぐらいのビデオなんですけれども、実際にやるのは5分ずつぐらいします。これ、うちの幼稚園で、うちのスタッフが歯ブラシするよと言ってるところです。みんな見てください。歯ブラシを見せてるんですね。よくフード見せるとああなりますよね。歯ブラシ見せてもこういう状態にならないといけないわけですね。私、私と言ってます、みんな順番を待ってるんですね。これ、

犬は気持ちいい(^^) 飼主もしあわせ～♪
そんな時間にしましょう!



【スライド 25】

楽しいことだからなんですね。【スライド 24】

これは、うちのわんこがうちの娘にブラッシングしてもらっている。ブラッシングも嫌いな子、多いですよ。ちょっと見せておきたいんですが、完全にリラックスしてるんですよ。何されるかわからない、飼い主さんがあれ持ったら何されるかわからないじゃだめなんですよ。完全に信頼関係があれば寝てられるわけですよ。そうすると犬にとってすごく気持ちがいい時間になるし、飼い主にとっても幸せな時間になるわけですよ。ぜひそんな時間に。多分、このとき、人間の血圧も下がってると思うんですけど、これが格闘だったら逆に上がるんじゃないですかね。やはり、関係づくりはすごく大事なことだと思うのです。

【スライド 25】

次、やっと最後です。これ、うちの子たちなんですけれども、社会化のところで話したように、子犬や子猫の時期に楽しく触れ合う経験をさせてあげるといことで、このように、犬も、猫も、人間も、本当に仲よく暮らせることができるようになるんですね。なので、皆様も、ぜひ子犬や子猫の時期に、人間社会で幸せに暮らすための教育、すなわち心のワクチンを接種してあげていただけたらと思います。

御清聴、ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました(^^)



【スライド 26】